

2020年は「スマート東京元年」に ～東京版Society 5.0の実現へ～

東京都は2019年12月、「未来の東京戦略ビジョン」を発表。その中の一つ、「東京版Society 5.0『スマート東京』の実現」について解説する。

人とモノがIoTでつながり 実現する都市のスマート化

東京都は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機に、ICTの利活用のスピードを促進させている。2020年1月に発表した「令和2（2020）年度東京都予算案の概要」の中で、主要な施策の紹介として「Ⅳ『スマート東京』の実現」を掲げ、この施策の実現のために、令和2年度予算で、158億円と、前年度比約8倍の予算を計上している（図）。

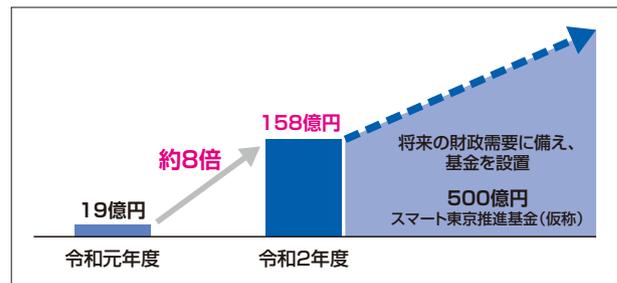
「スマート東京」はICTを活用した先進的な取り組みのことで、この推進により、すべての人とモノがIoTでつながり、都市全体がスマート化されることを目指す。防災、まちづくり、交通や教育など都民生活に広く最先端技術が浸透することで、東京を世界で最も便利で生活満足度の高い都市へと進化させるとし、2020年を「スマート東京元年」としている。

「スマート東京」を実現するための取り組みの一つが「『電波の道』で『つながる東京』」をテーマにした、今大会時の5G、Wi-Fi環境の整備である。通信キャリアによる5G通信網の整備とともに、大会競技施設及び周辺に無料Wi-Fiを整備することで、大会時に来場が見込まれる外

国人をはじめとする多くの観客が、必要な情報を円滑に検索・収集できるだけでなく、自らの観戦体験等を発信することで大会の盛り上げにも効果が期待できるとする。そして、5Gアンテナ基地局等の設置促進に向けて、都が保有するアセットを積極的に開放し、利用手続きの簡素化を図るため、都保有アセットデータベースを公開している。

また、ダイバーシティへの取り組みとして、障害や病気により会場での観戦が困難な子どもたちに、先端技術を活用し、大会をリアルに楽しめる機会を提供するとともに、東京2020ライブサイト代々木公園の来場者が5Gを体感できるショーケーシングの実施や、東京都が抱えるさまざまな社会的課題を解決できる先端テクノロジーを用いた、新しい社会実装モデルのショーケース化など、各種の取り組みを実施していくとしている。2020年東京大会をターニングポイントとして、官民一体となって進められるICT化の波に、今後も注視していきたい。

（図）「スマート東京」の実現に向けた東京都予算の前年度比較



出典：東京都「スマート東京実施戦略」

NEC

ともに奏で、ともに創る。
私たちの未来。

私たちは世界中の人びとと協奏しながら、
先進のICTで、明るく希望に満ちた社会を実現していきます。

Orchestrating a brighter world